

科目名	教育の科学(イノベートな人作り)
担当者	武田修三郎
配当学期	後期
単位	2単位
授業概要	ガラケイ、ギャラリー、ガラカン族が溢れる日本は世界で有数の NDCs (新興衰退国) である。つまり、日本中に時代遅れの認識の者があふれており、このままでは、世界の尊敬ではなく、無視の対象となる。認識をイノベートするのは教育によるしかないが、これは既存のものとは違う。この中で米国等他の NDCs では新しい教育法が試みられている(日本でも京都大学はリーディング「哲人」大学院を発足させ、これを試みようとしている)。この教育のポイントは二つ。知識、スキルを重視するのではなく、新たな認識(価値観、意欲、質感)を育む教養を重視。二つは、学ぶ者を現実に直面させる。週一度の講義ではこの二つを十分に行うことは出来ないが、それでも、そのきっかけは与えられる。世界はフラットである現実を共に学び、また、私が本物と思う人たちに(講義以外の場も含め) 出会う機会を提供する。
授業の到達目標	新たな時代に活躍する基礎は教養づくりにある。2020年の職場の2/3は現在存在していないものであり、これにチャレンジする心
授業計画	(1)教育の科学の目指すもの：世界をフラットにした条件を学ぶ (2)世界に育つミレニアム・ジェネレーションとは (3)新興国のイノベート精神を学ぶ (4) ニューサイエンスがもたらす重要法則を学ぶ (5) イノベーションを高めるためには研究開発国からもの作り国へ (6) 超学際(トランス・ディスプリナリー) 教育を学ぶ (7)グレートチャレンジャーの 意欲 (8) 認知を高めることができるか (9) 新たな教育の特徴 (10)メタ認知を学ぶ (11)メタ知性を学ぶ (12)徳を学ぶ (13)カーテンの奥をうかがい知る思考 (14)フロニーモスたち (15)再びフロニーモスとは
教科書	時々の項目で資料並びにテキストを提示。
参考文献	デミングの組織論、東洋経済新報社、武田修三郎 フロニーモスたち、宣伝会議、武田修三郎
成績評価方法	出席 20%、対話(各界の人との対話も含む) 50%、レポート 30%
関連 URL	多数あり時々で指定
備考	前期のクオリアの科学をとることが好ましい